

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078000108
法人名	医療法人十連病院
事業所名	グループホームじゅうれん
所在地	久留米市三潯町西牟田6557-89 (電話) 0942-65-1555

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	21年 1月 29日
評価確定日	21年 3月 3日

【情報提供票より】 (20年 12月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 16年 4月 10日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	20 人
常勤	13人
非常勤	7人
常勤換算	16.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) (100,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成20年 12月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	9 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	67 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安本病院・大石歯科・十連病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな環境の中にペンションを思わせる平屋建ての事業所があり、同敷地内に病院・デイケアなどの福祉施設がある。緩やかな坂上の居室から眺める公園のロケーションはなんとも心地良く、職員たちは、自分らしく「あるがままの生き方」を支援するという理念を大切に、ケアに取り組んでいる。また母体病院の支援体制ができており、医療面では早期回復への手立てができています。事業所では高齢者の心身の健やかさに果たす食事の役割を重要視し、一人ひとりに配慮された食事を提供している。また、地域の要望により、社会福祉協議会と連携で「在宅生活での介護・介護予防」などの講座を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点の項目を運営推進会議に報告し、具体的な改善シートを作り全職員で意見交換し、地域密着型の視点を盛り込んだ理念を作りあげている。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実践する意義を理解し、管理者が中心となって、項目ごとに全職員の意見を聴取・集約している。また、前回評価の改善課題の実施に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に開催し、現状や今後の活動計画、外部評価等を報告している。家族の意見や委員からの声を取り入れ、フロアの間仕切りを取って空間にゆとりを持たせ、ユニットの交流を図るなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族会や意見箱を設置している。来訪時に声をかけたり、運営推進会議の中で、日頃の不安・悩み・要望など発言して貰い、意見を運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域全体で取り組む恒例の祭りには駐車場を開放、また敷地内の展示館を解放し、自由に見学できるようにしている。また、地域の保育園と交流し、中学生の体験学習を受け入れている。地域の行事には積極的に参加している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域で地域のみなさんと・・・」という地域密着型の視点が盛り込まれた事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝礼やカンファレンス時に理念を共有し、具体的なケアについて意見の統一を図り実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域全体で取り組む恒例の祭りには駐車場を開放、また敷地内の展示館を解放し、自由に見学できるようにしている。また、地域の保育園と交流し、中学生の体験学習を受け入れている。地域の行事には積極的に参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、管理者が中心となって、項目ごとに全職員の意見を聴取・集約して取り組んでいる。また、前回評価の改善課題の実施に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、現状や今後の活動計画、外部評価等を報告している。家族の意見や委員からの声を取り入れ、フロアの間仕切りを取って空間にゆとりを持たせ、ユニットの交流を図るなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、行政担当者に事業所の近況報告、質問、相談をし、日常的に連携・交流をしている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度については学ぶ機会を持ち、外部研修に参加した職員がその資料を基に職員会議の中で伝達をし、全職員の周知徹底を図っている。研修毎に内容をCDに保存し、記録簿に残している。家族には契約時に制度の説明をしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回発行の事業所便りで事業所での利用者の暮らしぶりなどを、請求書と併せて郵送している。家族の来訪時には声をかけ、交流している。金銭管理については、事業所での管理は行っていない。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や意見箱を設置している。来訪時に声をかけたり、運営推進会議の中で、日頃の不安・悩み・要望など発言して貰い、意見を運営に反映させている。家族の意見で、フロアの間仕切りを取って空間にゆとりを持たせ、ユニットの交流を図った。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人では、現場の状況を最優先とし、異動や離職を必要最小限に抑えるよう努力している。また、2ユニット間で日常的に職員の交流を行い、馴染みの関係を作る等、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>事業所は、幅広い年齢層で性別・年齢は問わず採用している。本人の得意分野を發揮し、専門知識、技術を習得しレベルアップを目指す意義づけが出来るよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者は人権教育の重要性を認識し、全職員でスライド・ビデオ等を使用し「人権擁護」の勉強会を行っている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は、全職員が日常的に学ぶことを推進し、職員各自に応じた段階的・計画的な学びの機会の確保に努めている。全職員が研修内容を共有出来るよう、研修報告書とCDを整備し、いつでも習得できるよう保管している。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市・県のグループホーム協議会に加入している。管理者・職員は、近隣の事業所との電話交流、相互訪問を通じて情報交換し、サービスの質の向上につなげている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に事業所の見学や、昼間の体験入居を行い、場の雰囲気に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。やむを得ず即利用の場合は、居宅介護支援者と連携しながら安心して利用できるよう、配慮している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員はいろいろな漬物等を教わったり、料理では白和え等、利用者の得意分野で発揮してもらい、互いに学び支え合っている。職員は利用者と共に生活する中で「愛おしさ」を感じる関係を築いている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	職員は日々の関わりの中で利用者に声をかけ、本人の希望や意向の把握に努めている。意志の表出が困難な場合も表情・言動から汲み取り、本人が意思表示できるよう積極的な働きかけをしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	本人・家族の思いや意向、職員の気づきを取り入れ、一人ひとりのその時点にそった個別具体的な計画を作成している。家族へ説明を行い、同意のサインを貰っている。		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3カ月に1回、利用者の状態変化や状況に応じて介護計画を見直し、現状に即した新たな計画を作成して家族に連絡している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	利用者の入院生活を考慮、病院と連携し事業所で医療処置を受けながらの生活の継続、早期回復への取り組みを行っている。通院の送迎は家族の状況に応じて柔軟に支援している。また、共用型認知症デイサービス、ショートステイを受け入れている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する医療機関による受診を支援している。利用者受診時の経過は、家族と連絡を密にし、情報を共有している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りについて事業所の対応指針がある。かかりつけ医・訪問看護ステーションとの連携が出来ること等を、利用時に説明している。本人や家族の意向を大切に全員で方針を共有している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が個人情報保護法・守秘義務の研修を受講し意識向上を図っている。職員は利用者の誇りやプライバシーに配慮した言葉かけ・対応に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、希望にそった支援をしている。食事の時間帯や、起床、就寝の時間は利用者本人の気持ちを尊重し柔軟に対応している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は季節の旬のものを心がけ、食事は目で見て、食べて楽しむ事を基本としている。職員は同一テーブルで利用者と同じ食事を食べ、会話が弾む楽しみの時間になっている。利用者は準備から片付けまで一緒に行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、利用者の希望にあわせて柔軟に対応し入浴を楽しめるよう支援している。入浴拒否の人には、人を代えたり、時間をずらし臨機応変に対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や、興味などを活かし、漬物、お茶入れ、白和え作り、牛蒡のさがきなど個々に発揮して貰っている。畑仕事や、週1回の音楽療法では、ピアノを弾いたりし楽しみの一つになっている。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調、希望に応じて日々の散歩、食材買い出しや自分の買い物に出かけている。ドライブは週1回、外食は4カ月に1回程度、支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関やベランダ、居室には施錠していない。全職員は利用者の外出傾向を把握しており、見守りや声かけをしている。敷地内の母体系列事業所と連携体制を作っている。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを整備している。年2回、消防署の協力を得て消火器の使用法や避難経路の誘導を行っている。運営推進会を通して、実施日には地域住民の参加協力を呼びかけている。また、非常用食料や飲料水、備品など準備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者の嗜好や状態に配慮して、栄養士が作成している。個々の摂取量を考慮して配膳し、栄養摂取量は全員記録し、水分摂取量については、大まかに把握しているが、記録はない。	○	水分摂取量についても、チェック表等を活用し、全員分の記録を残してほしい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花を飾り、リビングには、日めくりカレンダー、スナップ写真、力作書道が貼られている。ソファや一角の和室には姿鏡を置き、家庭的な居場所作りに配慮している。天窓から自然採光を取り入れ、眩しい光には調整を行っている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・チェストは事業所の備えであるが、それぞれ利用者の好みや馴染みのもの等を生活スタイルに合わせて用意している。季節の花や家族写真が飾られたり、利用者の個性が感じられる居室になっている。		

※  は、重点項目。